

講義コード	515105002															
講義名	基礎教養I CD															
(副題)																
開講責任部署	幼児教育科 (短大)															
講義開講時期	前期															
基準単位数	1															
時間	0.00															
代表曜日	水曜日															
代表時限	1 時限															
科目分類名	教養科目															
科目分野名	B群															
対象学部・年次	短期大学部・1年															
必須/選択	必修															
担当教員																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>西田 直樹</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>久野 高志</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会 (短大)</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>横井 夏子</td> <td>女子短期大学部</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	西田 直樹	指定なし	専任教員	久野 高志	指定なし	専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし	専任教員	横井 夏子	女子短期大学部
職種	氏名	所属														
専任教員	西田 直樹	指定なし														
専任教員	久野 高志	指定なし														
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし														
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部														

授業の概要

【授業の概要】

短大で学ぶために必要な「話す・書く・調べる」の3つの力を身につけます。
 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。
 授業は3パートに分かれており、3名の教員がオムニバス形式で担当します。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文章の作成）を行います。
 本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ・話し合い・文章や言葉で発表する」という事を行います。

④課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点后、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。

授業の到達目標及びテーマ

【1 授業の目標とテーマ】

この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標とした初年次教育です。（詳しくは到達目標を参照してください。）

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効率的に学んでいきます。

【2 学習成果評価マトリックスとの関連】

学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。

特に②知識・技能を重視する。

(備考)

Aパート 「文章作法」文章力の基礎を身につけて、授業や実習における実務に活用できる。

Bパート 「ディスカッション」基礎的なディスカッション能力を身につけて、授業に活用できる。

Cパート 「図書館活用法」図書館活用能力を身につけて、レポート作成に活用できる。

【3 ディプロマ・ポリシーとの関連】

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。

授業計画表

回	担当教員	項目
第1回	Aパート「文章作法」（担当 西田）	A-1 「一文一義」のわかりやすい文章
第2回		A-2 作短生としての考え方を文章に落とし込む
第3回		A-3 感想の書き方（「ふり返り」と「課題発見」）
第4回		A-4 相手にやる気が伝わる文章の書き方
第5回		A-5 公文書における敬語の使い方
第6回	Bパート「ディスカッション」（担当 横井）	B-1 なぜ「話し合う」ことが大切なのか
第7回		B-2 短大生活で努力すべきことは何か
第8回		B-3 子どもに関わる責任について考える
第9回		B-4 福祉施設について学ぶ
第10回		B-5 ボランティア活動について考える
第11回	Cパート「図書館利用法」（担当 久野）	C-1 大学図書館での学習方法（館内施設の利用法）
第12回		C-2 図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法
第13回		C-3 図書館司書の仕事
第14回		C-4 公共図書館における障害者サービス
第15回		C-5 期末レポートに役立つ図書館利用法
第16回		期末試験（レポート試験）

授業時間外の学修

予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した受魚う内容の予習・復習3～5時間程度行うこと。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
○	◎		○

ルーブリック

評価	excellent	average	developing	unachieved

項目	優秀 ()	平均 ()	途上 ()	未達 ()
材や授業課題の理解	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる。	授業内容をほぼ95%程度理解していて、自主的な学修も少し行えていると認められる。	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる。	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポート等への助言・新たな資料提供等の支援を行っている
調査する力 (予習を含む)	自ら進んで予習範囲を超えて調べるとともに、それを他者に説明することができる。	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる。	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な美便がある。	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容は不十分である。
レポート力 (復習を含む)	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマにある程度沿って、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマに沿ったレポート等になっていないため、教員が添削等の支援をしている。

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	60%	期末のレポート試験を実施する。
小テスト等	10%	
成果発表	10%	
授業への貢献度	10%	
レポート	10%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

等	クリッカー、アンケート、小テスト
---	------------------

アクティブラーニングの割合

る	総授業時間数の30~60%程度のアクティブラーニングである
---	-------------------------------

アクティブラーニングの内容

--	--

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	実験観察・実習	授業前レポート（予習） 授業後レポート

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。

参考書

各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。

SDGsとの関連

に う	4. 質の高い教育をみんな 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
--------	---

特記事項等

①実務経験のある教員

本科目は、B・Cパートにおいて 実務経験のある教員が担当します。

②科目ナンバリング

LIL1103

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリット式授業を行う。

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。

短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212） 久野研究室（2213） 横井研究室（2225）

代表者（西田）の研究室は、212研究室です。

月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

成績評価法（表形式）に同じ